

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 商学演習(1年次必修科目)における共通講義内容（ベンチマーク）を作成し、教員に徹底する。	→商学演習の共通講義内容（ベンチマーク）の作成。毎年4月の教授会での配布と確認。	B	C			
2. 各学年の履修申請単位数上限を2～4単位程度引き下げ、一方でGPA上位の学生には単位数制限を緩和する。	→履修申請単位数。内規の改正。	A	A			
3. シラバス内容と整合する授業が実施されているかを確認する。	→シラバスの遵守について教授会での確認。	C	C			
4. 全科目のシラバスにおいて評価方法を明示する。	→ネットシラバスへの評価方法の記載率。	B	B			
5. 成績評価結果を教員へ公開する。	→事務室における成績評価結果の常時閲覧実施の有無。	A	A			
6. 単位認定の適切性を定期的に確認する。	→単位認定数。定期的な単位認定の見直し内容。	A	B			
7. FD委員会主催の授業改善のための研究会を継続し、FD委員会主催研究会への参加教員を増加させるとともに、教員からの提案・議論の活性化および授業改善取組事例の共有を進める。	→FD委員会主催の研究会の開催数。FD委員会主催の研究会への参加教員数。授業改善取組事例の報告数。	A	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	<p>6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。</p> <p>(説明) 教育効果の改善を図るために、基礎科目の開講数の増加(教員数の追加採用を含む)と必修化、履修単位数上限の引き下げ、特定科目の卒業単位数への組み入れを制限する等の内容を盛り込んだ新カリキュラムを、2012年度から実施する予定で、現在準備を行っているところである。「簿記基礎」と「経済学基礎」(いずれも必修科目)は、大人数授業から中人数授業に編成し直される。このように概ね適切な方向へ改善されている。なお、各学年・学期の履修単位数制限の強化については2011年度入学生より実施している。</p> <p>(現状説明) 2012年度から実施する新カリキュラムに主な内容として以下のものが盛り込まれており、現在その実施に向けて鋭意準備中である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門基礎教育の強化 2. 専門科目の2単位化 3. その他
★ 小項目6.3.2	<p>6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p>(説明) 各教員の努力に任せているが、その確認作業はしていない。</p> <p>(現状説明) シラバスの作成の徹底と内容の充実を、教授会等で全教員に求めている。授業内容・方法とシラバスとの整合性については、授業評価等で学生からの評価をフィードバックさせて改善に結びつける仕組みが活用されている。同時に、2012年から実施する新カリキュラムについては、全科目のシラバスを全教員に提出してもらい、内容等の確認を行っている。</p>
小項目6.3.3	<p>6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p>(説明) 成績評価については、問題のある教員について内容改善を再々申し入れ、改善がみられない科目については、商学部の授業科目から排除、または、(選択必修科目については)別の担当者による複数コマ開講の措置をとった。単位認定については、検定試験制度や内容の変更に応じて、適切な単位認定が行えるよう、継続して見直しを行っている。</p>
小項目6.3.4	<p>6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない</p> <p>(説明) 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施の一貫として、FD委員会とFD研究会を開催した。模範的教授方法、授業改善、学生への対応等についての検証と意見交換を行い、また、教員全体の議論により授業の運営や教授方法についてのノウハウを教員間で共有した。</p>
その他	特になし

《評価指標データ》

履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
 少人数授業の授業形態の調査
 規模別講義室・演習室使用状況
 マルチメディア教室の稼働率
 遠隔授業を活用した授業の比率
 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
 GPA値(全学、学部別、男女別など)
 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
 オープン授業(授業公開)の全授業における割合
 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	2012年度から実施される新カリキュラムに、改善すべき項目のほぼすべてを見直し、盛り込む予定である(上記参照)。履修単位数上限の引き下げは2011年度入学生よりすでに実施済みである。
小項目6.3.2	シラバス作成の徹底。授業評価の活用。
★小項目6.3.3	厳格な成績評価の実施についての教員への徹底と、問題のある科目・担当教員についての見直し。学生の成績問い合わせ機会の確保と活用。検定試験制度の変更等があった場合の、単位認定の見直しと、新カリキュラムの導入にあたり、すべての単位認定要件の見直しを並行して行っている。
小項目6.3.4	2010年度は、FD教授研究会を2回開催した。第1回は、2010年5月26日(水)15時20分～17時、テーマ「商学演習および人文演習の運営について」として、第2回は、2010年12月22日(水)15時20分～17時、テーマ「経済学部のカリキュラムについて」として実施し、活発な議論が交わされた。第1回の成果は全教員の演習運営に、第2回の成果は2012年度から商学部で実施される新カリキュラムに反映されている。
その他	特になし

【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	2012年度から実施する予定の新カリキュラムにおいて、教育効果の改善を目的として、基礎科目の開講クラス数の増加(教員数の増加)と必修化、特定科目の卒業単位数への組み入れを制限する等の内容を盛り込むための準備作業を行っている。
小項目6.3.2	シラバス作成の徹底と授業評価の活用について、引き続き教授会等で全教員に確認する。
★小項目6.3.3	厳格な成績評価の実施について、引き続き教授会等で全教員に確認するとともに、問題があると思われる科目・担当者が明らかになった場合には、個別に担当教員に厳格な授業評価の徹底を求めるか、科目や担当者についての見直しを行う。
小項目6.3.4	FD委員会とFD研究会を継続的に開催し、教授法や学生対応のノウハウを教員間で蓄積する。
その他	特になし

◎改善すべき事項

※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	現行カリキュラムにおける改善事項を新カリキュラムに取り入れる。
小項目6.3.2	授業評価利用の推進。授業評価のフィードバックの実施について確認すること。
★小項目6.3.3	評価が厳格に行われていないと思われる授業があるかどうかについて確認する。
小項目6.3.4	特になし
その他	特になし

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	2012年度から実施する予定の新カリキュラムにおいて、次の内容を確実に実施するための、各教科の担当者との調整、各種依頼等の準備作業をスムーズに行う。 1. 専門基礎教育の強化 2. 専門科目の2単位化 3. その他
★小項目6.3.2	授業評価のフィードバックの有無について確認すること。
小項目6.3.3	評価が厳格に行われていないと思われる授業の有無について確認した上で、担当者に改善を申し入れる。あるいは、科目・担当者についての見直しを行う。
小項目6.3.4	特になし
その他	特になし

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他(自由記述)	特になし
------------	------

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

- 「目標」の進捗評価において、B→CやA→Bと昨年と評価が変わっている点については、判断の根拠を記述することが望まれます。
- 「現状の説明」の記述が具体的で詳しく、「効果が上がっている事項」や「改善すべき事項」にも丁寧な目配りがされています。ただ、「改善すべき事項」は、現在どういう問題が生じているのかを具体的に記述することが望まれます。

【学内委員】

- いくつかの進捗評価に後退が見られることは気になりますが、多くの目標をあげて着実に改善に取り組んでおられる姿勢がうかがわれる記述です。現状や課題の説明も丁寧で、次年度に向けた改善の方策などについてもしっかり記入しておられます。
- 小項目6.3.1と6.3.2の現状の説明において、(説明)と(現状説明)の2つの見出しがありますが、(説明)でまとめてください。「効果が上がっている事項」と「改善すべき事項」の記述は、現状説明に加えるべきものがあつたり、重複があつたりします。もう少し整理して、わかりやすい記述をしてください。目標の進捗評価で評価が2009年より下がっているものがありますが、これについては、その理由などの説明が望まれます。
- 小項目6.3.1については、カリキュラム改正の作業中であるのでしょうか、要素などを参考にしながら現状はどうであるかを説明する必要があります。そしてその中で課題が示され、改善すべき事項としてカリキュラム(改正)が出てくるのではないのでしょうか。この説明では現状は分かりません。
- 小項目6.3.2については、大学基準協会の留意事項に沿った記述を追加されることが望まれます。
- 小項目6.3.3については、適切な対応をされ評価されます。なお、成績評価方法や基準が明らかにされていることについての説明が必要でしょう。
- 効果が上がっている事項、改善すべき事項の内容は、現状説明の内容が多いようですので、整理する必要があります。
- 目標の進捗評価が「B」→「C」などと下がっているものがあります。本目標は、2013年度までの中期的な目標ですから、本来評価は昨年度と同じか上がるはずですが、単年度の成果を見ていく目標も重要ですが、それはそれとして設定され、既に評価が「A」のものも含め、中期的な目標として再検討されることもお考えください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置(厳格な成績評価など)が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

進捗評価については、今回は単年度成果として記入したため、評価を下げて記載しているものもある。これらは2012年度実施の新カリキュラムから一斉に実施することを予定しており、今年度の積極的進展を見送り、2012年度に向けての準備として対応したことによるものである。

6.3.1に関して、現行カリキュラムでは、専門科目が4単位であり多くの科目の学習を妨げていること、コース共通特論科目が各コースの単位に算入されることにより学生の履修行動に自由度を与えずにしまいコース本来の科目の学習を阻害していること、専門基礎科目の学習をより強化する必要があること、単位認定を目指して授業を履修しない学生が増え単位認定の本来の意図が生かされていないこと、言語科目が通年で開講されているため学生の留学機会の確保が難しい、といった問題点を抱えている。そこで、現在、2012年度から実施する約10年ぶりのカリキュラム改正において、専門基礎教育の強化、専門科目単位の2単位化、言語教育科目のセメスター化、特定科目の卒業単位数への組み入れ制限、資格による単位認定の見直し等を含む内容を検討し、その準備を行っている。

6.3.2についても、2012年度実施の新カリキュラムから一斉に実施することを予定しているため、今年度の積極的進展を見送り、2012年度に向けての準備として、大学基準協会の留意事項に沿ったシラバス作成に向けた対応をしている。

6.3.3の成績評価については、現行においてもその方法や基準が明確にされており、定期試験後・採点時には担当教員に成績評価方法・基準について記載したガイドラインを配布し、それに沿った採点を実施するよう、遵守の徹底を行っている。